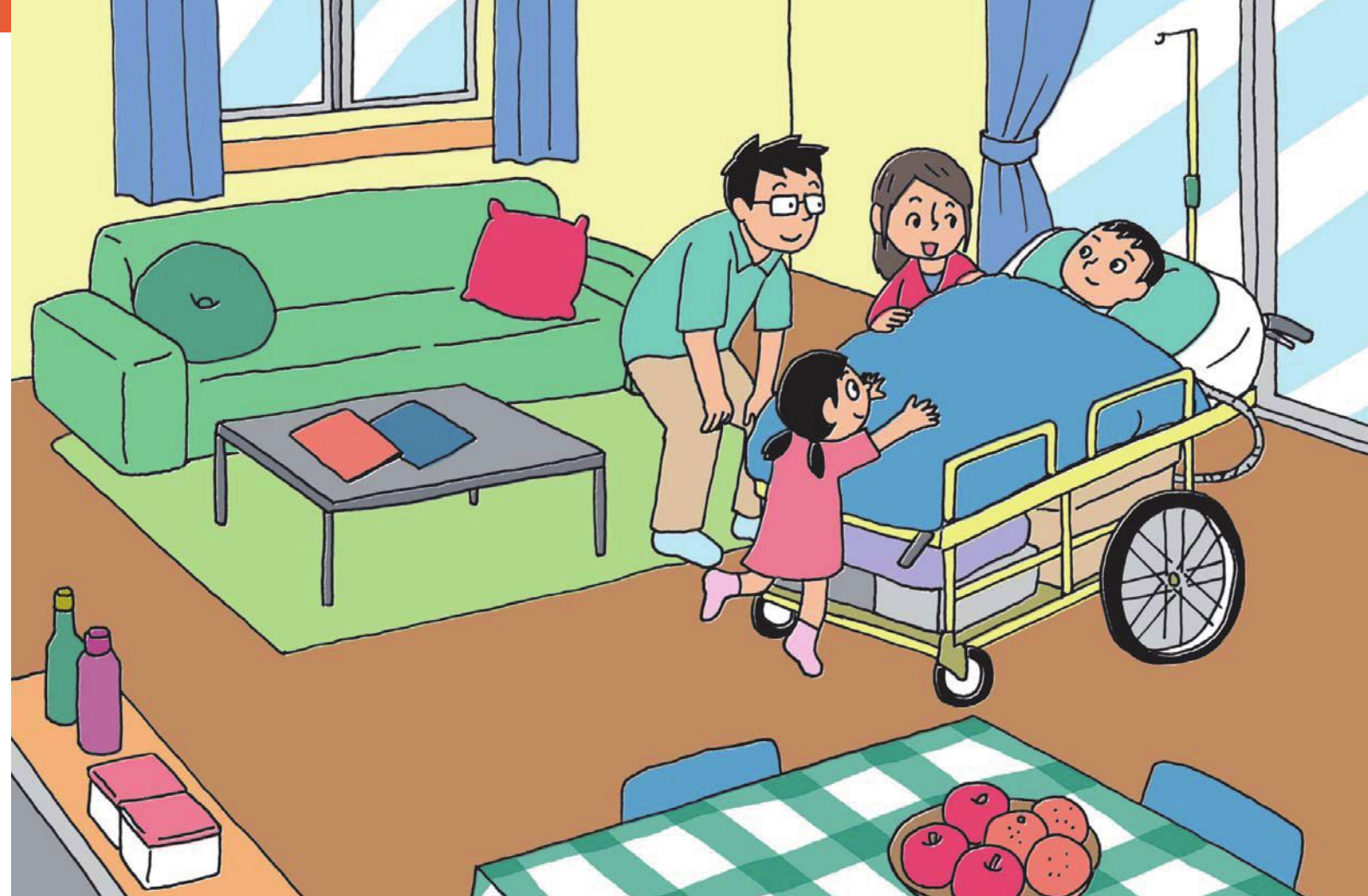


居室（寝室）

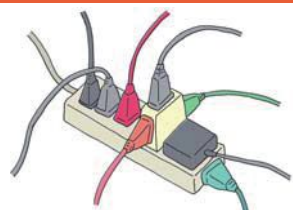
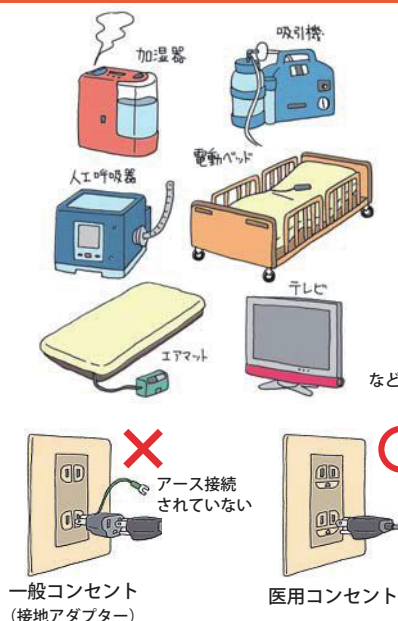
生活のリズムを獲得していくことや、家族のプライバシーを守るためにも、可能な限り子どもの寝室と日中の居場所は分けたいものです。また、医療的ケアが必要な子どもの在宅生活では、多くの医療機器や福祉用具、家電製品が入ってくるため、電気容量やコンセントの数を確保しましょう。さらに、看護師やヘルパーなどが頻繁に出入りすることになりますので、間取りや動線にも配慮したいところです。家族の精神的な負担を少なくし、在宅生活を継続する非常に重要なポイントになります。



ポイント① ベッドまわりはコンセントがたくさん必要です！

人工呼吸器、吸引機、酸素発生装置、パルスオキシメーター、電動ベッド、エアマットなど、子どもの状態によっては、様々な医療機器や福祉用具などが療養室に入ってくるようになります。さらにテレビ、エアコン、空気清浄機、ラジカセ、パソコン、携帯電話、オーディオ類などの家電製品等も子どもの部屋に置かれる可能性が十分に考えられます。

それらのほとんどは電源が必要になるため、療養室にはコンセントが7ヶ所（14口）以上あるとよいでしょう。

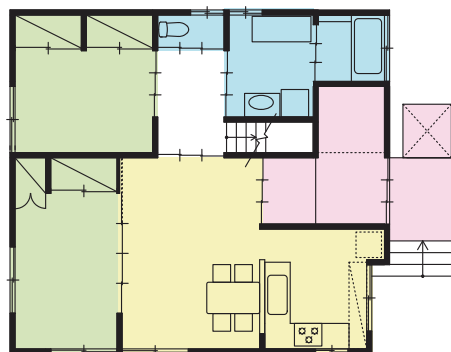


タコ足配線はキケンです。一定の電気容量を超えるとブレーカーが落ちたり、発熱や発火の可能性が高まります。また、医療機器の管理のためにもタコ足配線は避けましょう。人工呼吸器などの医療機器は感電事故の防止のためアース接続が義務付けられています。電気店に依頼して医用コンセントを設置しましょう。

ポイント② 介助しやすい間取りや動線も考えましょう！

日中、キッチンで調理をしている時でも子どもの様子は気になるものです。その場合は、カウンターキッチンにして、キッチン内からも子どもの様子が確認できるような間取りがよいでしょう。また、医療的ケアが必要な子どもの在宅生活では、医療や福祉との連携が必須となります。すなわち、看護師やヘルパーの出入りが頻繁

になるということです。家族の性格や考え方にもよりますが、夜間や早朝にも人が出入りする場合には、家族と出入口やトイレを分けることや子どもの部屋に洗面器や電子レンジ等を置いている場合もあります。退院後は、イメージがつきにくいので、生活をしながら状況に応じて少しずつ変更していくと良いでしょう。



国際福祉機器展（H.C.R.）2016

医療的ケアが必要な子どもの住まいの工夫

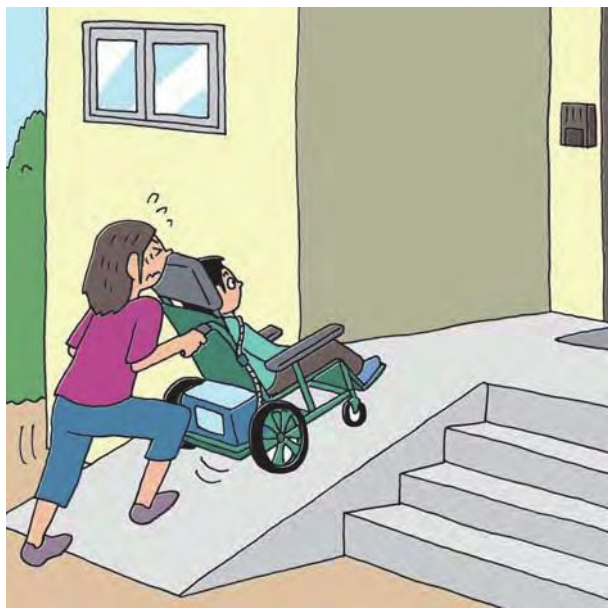
近年の新生児医療の発達等により、医療的ケア（たんの吸引や経管栄養、人工呼吸器等）が必要な子どもが急増しています。このパンフレットは、医療的ケアが必要な子どもと家族にとって、少しでも安全で快適な住まいが実現できるよう、基本的なポイントをまとめています。さまざまな医療・福祉サービスと一緒に活用していただければ幸いです。

参考文献：

- 1) 在宅における人工呼吸器の安全使用のためのガイドライン、島根県健康福祉部健康推進課、島根県難病医療連絡協議会、2012.3
- 2) 西村 顕：重症心身障害児者の入浴環境とその移行支援に関する研究、横浜国立大学大学院、博士論文、2013.3

企画・協力：横浜市総合リハビリテーションセンター研究開発課

担当：西村 顕（一級建築士・工学博士）



外出

外出しやすい環境を整えることはとても大切です。道路から玄関まで高低差があり、敷地が狭い場合は、スロープをつくと角度がとても急になってしまい、使いにくくなる場合があります。そんな時は、段差解消機が役に立ちます。機械を使ってエレベーターのように車椅子を上下に移動することができるので、スロープよりも小スペースで設置ができます。段差解消機の種類はメーカーによって様々ありますので、動線や設置スペース、費用面等を考慮しながら選択するとよいでしょう。

ポイント① 玄関以外から外出することも検討しましょう！

一般的に玄関には上がり框という段差があります。さらに、玄関を出た後もポーチの段差などがあり、車椅子での外出が大変な場合があります。

そのような時は、玄関以外からの外出を考えましょう。

居室の掃き出し窓からスロープや段差解消機を使って外出すると、意外と簡単に外出できることがあります。

段差解消機は様々な種類や大きさがありますので、試用することをオススメします。

段差解消機の注意点

- ①掃き出し窓から段差解消機へ移動する場合は、サッシの溝で車椅子のキャスターが脱輪しないように、渡し板などがあると安全です。
- ①段差解消機が地面に降りた時に地面とフラットになるように機器自体を土の中に埋め込む仕様（ピット工事が必要になります）にしておくことでスムーズに移動ができます。
- ②無線リモコンで段差解消機の操作ができると便利です。

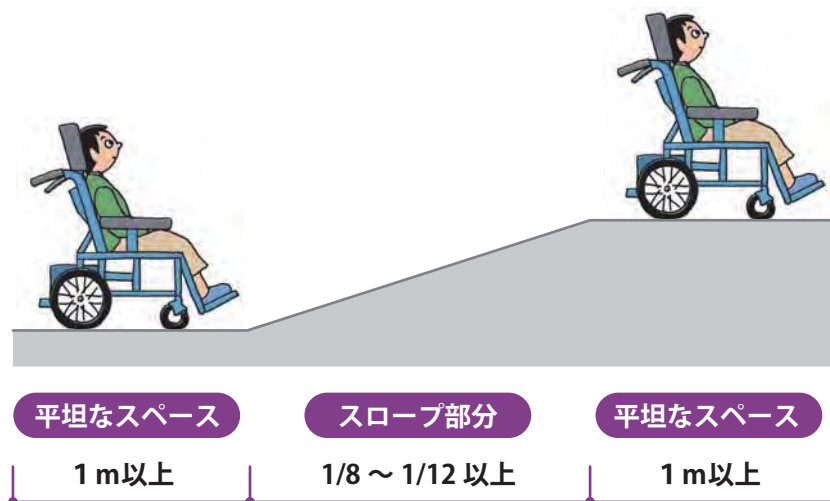


段差解消機は、小スペースで一気に段差を解消できるため、スロープが安全に設置できない場所などでよく使われます。

ポイント② スロープの前後には平坦なスペースが必要になります！

スロープを設置する場合は、スロープ自体の角度をゆるくすることがまずは大切なポイントになります。同時に、使い勝手を考えると、スロープの前後の平坦なスペースを確保することが非常に重要になります。

スロープ前後に平坦なスペースがないと、スロープの途中で車椅子を止めて、玄関ドアや門扉を開閉するというキケンな行動につながってしまいます。スロープの途中で車椅子を止めたり、回転させる介助はとてもキケンです。



入浴

入浴には、身体が温まることで疲れがとれたり、血流が良くなり内臓の働きを促進したり、リラックス効果などがあるとされています。しかし、狭いスペースでの介助は子どもの頭や足を壁やドアにぶつかけたり、滑って転倒というリスクが高まります。1.25坪以上の浴室スペースで2人以上の介助者がいるとより安全になります。また、バスタチェアやリフトなどの福祉用具を積極的に活用することをオススメします。人工呼吸器を使っている場合は、訪問入浴サービスを利用するとよいでしょう。

ポイント① 2人で介助しやすい浴室サイズは1.25坪（1620）以上！

浴そう

手すりや半身浴用の台の無いシンプルな浴そうが使いやすい。

洗い場

バスタチェアなどを置くので、できるかぎり広いタイプを選ぶ。滑りにくくクッション性のある材質が望ましい。

出入口

段差なし。
扉は三枚引戸が使いやすい。通過できる扉幅は80cm以上を目安に。

脱衣室 他

簡易ベッドなどの台を置いたら洗濯機、洗面器を除いて1坪以上のスペースが必要。その他、浴室暖房などの寒さ対策も考えましょう。

カウンター

カウンターの出っ張りが少ないタイプを選ぶ。もしくは下があいているものでも可。洗い場が広く使えるように心がけましょう。

リフトの補強

将来のリフト設置に備えて、壁や天井にリフトの補強材をあらかじめ入れておくことで安心。ただし、リフトの種類によって補強の方法が異なるので、リフトメーカーへの確認は必須。照明器具はダウンライトにしておくことでリフト設置時に邪魔にならない。

ポイント② 訪問入浴サービスを積極的に利用しましょう！

訪問入浴サービスの注意点

- ①人工呼吸器を利用している場合は、必ず医療機関に相談しましょう。慣れている事業所を使いましょう。
- ②ベッドやラックなどはキャスター付きのものにして、移動できるようにしておくとういでしょう。

